

科目名	グローバル経済論					
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照			
開講期	秋学期	開講学部等	経済学部	配当年次	2 年次	単位数 2 単位
教員名	大川 良文					

授業概要／Course outline

グローバル経済論では、世界経済の変化を読み解くうえで重要なニュースを題材に、世界経済の情勢を読み解くための基本知識を深め、経済ニュースに対する理解を向上させることを目的としています。

ただし、世界経済の情勢は絶えず変動しているので、なるべくタイムリーな問題に対処できるように講義内容を変更することもあります。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- オンデマンド授業はmoodleで行う。内容に関する質問はメールで受け付ける。

授業内容・授業計画／Course description・plan

以下のとおり、ただし、世界経済の情勢の変化に応じて、内容を大きく変更することもあります。

第1回 イントロダクション

授業で取り扱うグローバル経済の歴史と現状について説明します。

★オンデマンド テーマ：レポート課題の評価基準について

授業内で課すレポート課題の評価基準、特にどのようなレポートが「不可」となるのかについて説明した動画（約90分）を第1回授業終了後にMoodleにアップするので、レポート課題に取り組む前に視聴しておくこと

第2回 グローバル・サプライチェーンの形成

戦後の世界規模の自由貿易体制の形成と、IT革命による情報通信技術の発達によって、国際貿易の形態は大きく変化しました。本講義では、先進国と途上国をまたがるグローバル・サプライチェーンが形成過程と、それが世界経済に与えた影響について説明します。

第3回 サービス経済化と先進国内の格差問題

経済発展に伴い、欧米や日本など先進諸国ではサービス経済化が進んでいます。グローバル化と技術進歩、そしてサービス経済化の進展は、先進諸国内における所得格差の拡大の原因となっており、先進国の経済に暗い影を落としています。本講義では、先進諸国内の所得格差問題について説明していきます。

第4回 欧米諸国における移民・難民問題

近年、米国や欧州諸国では、外国からの移民や難民に対して、その受け入れを制限しようという政治的な動きが起こっています。本講義では、そのような問題が起こった原因と現状について説明します。

第5回 コロナ禍以降の世界的インフレと金融政策の動向

コロナショックからの経済回復とロシア・ウクライナ戦争をきっかけに、2022年半ばごろから多くの国で物価は上昇し、これに対処するために多くの国の中央銀行は政策金利を引き上げていきました。これにより、インフレは沈静化の兆候を見せていますが、各国のマクロ経済は依然不安定な状況が続いています。本講義では、各国のマクロ経済動向の現状について説明します。

第6回 金融グローバリゼーションと世界経済

金融グローバリゼーションによる国際資本市場の統合は、多くの新興国に対して経済発展を促進するための資金を供給する一方で、金融危機（通貨危機・債務危機）の引き金となることもありました。本講義では、外国からの資金流入と急激な資金流出に翻弄された新興国経済の歴史について説明します。

第7回 欧米諸国の財政問題

インフレに伴う市場金利の上昇は政府に対して財政赤字拡大による景気対策を困難なものとしませんが、格差拡大やインフレに不満を持つ国民の不満は政府に財政支出増大への圧力をかけています。本講義では、欧米諸国の財政問題とそれが国内政治に与える影響について説明します。

第8回 米国トランプ大統領と自由貿易の危機

米国のトランプ大統領は米国第一主義の名のもとに、第1期政権のときに中国からの輸入品に対して輸入関税を引き上げ米中貿易戦争を引き起こしました。第2期政権でも中国からの輸入品に対する関税引き上げと中国以外の国に対する関税も引き上げると主張しています。このような自国経済優先の関税引き上げは戦後築き上げられた世界の自由貿易を壊しかねないほど大きな問題です。本講義では、米国トランプ大統領の貿易政策とそれが世界経済に与える影響について説明します。

第9回 経済安全保障と産業政策

デジタル技術の中核を成す半導体と、自動車技術の大転換を象徴するEVの生産については、原材料から最終製品に至るサプライチェーンと雇用の国内確保を目的に、日米欧・中国などの主要国を中心に積極的な産業政策が展開されています。本講義では、これらのハイテク製造業を巡る国際競争の実態について説明します。

第10回 中国経済と中所得国の罅

この数十年で、最も劇的な経済発展を遂げた国は間違いなく中国です。しかし、多くの途上国は一定の経済発展を達成しても、先進国に至る前に経済成長が停滞する中所得国の罅に陥っています。中国も例外ではなく、今後の経済発展に向けて克服しなければならない課題があります。本講義では、中国経済が直面する課題について説明します。

第11回 一帯一路と途上国の債務再編

中国は2013年に一帯一路構想を打ち出し、アジア諸国から欧州に至る多くの国に対して、主にインフラ整備を中心とした資金提供を行いました。しかしながら、途上国の中には外国からの債務を返済することに窮する国も現れています。本講義では、中国の一帯一路政策について説明するとともに、それに関連して途上国の債務再編問題について説明します。

第12回 地球温暖化問題と世界経済

2020年、パリ協定に基づいて多くの国が、2050年までの温暖化ガスの実質排出ゼロ（カーボン・ニュートラル）の実現を目指すことを宣言しました。本講義では、地球温暖化問題への各国の取り組みが世界経済に与える影響について説明します。

第13回 ESG投資とグローバル・サプライチェーン

近年、環境や人権など企業の社会的責任投資への資金提供を促進するESG投資が広まっており、2015年の国連での持続可能な開発目標（SDGs）の採択を契機に急速に拡大しています。本講義では、ESG投資がグローバル・サプライチェーンや世界経済に与える影響について説明します。

第14回 世界の中の日本経済

これまでの講義内容を関連して、日本経済の現状と直面する課題について説明します。

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回：〔事前学修〕 シラバスに目を通しておくこと。

〔事後学修〕 配布された資料を振り返って講義内容に関して理解すること。

★オンデマンド テーマ：レポート課題の評価基準について

〔事前学修〕 事前資料に目を通しておくこと。

〔事後学修〕 授業内容を踏まえて第2回以降の課題に取り組むこと

第2回：〔事前学修〕 Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。

国際経済学Aの教科書を持っている学生には、教科書の第5章を事前に読んでおくことを勧める。

〔事後学修〕 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。

第3回：〔事前学修〕 Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。

〔事後学修〕 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。

第4回：〔事前学修〕 Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。

国際経済学Aの教科書を持っている学生には、教科書の第6章を事前に読んでおくことを勧める。

〔事後学修〕 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。

第5回：[事前学修] [事後学修]	Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。 経済学入門やマクロ経済学の授業を受けた学生は、授業内で配布された金融政策に関する資料を事前に読んでおくことを勧める 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。
第6回：[事前学修] [事後学修]	Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。 国際経済学Aの教科書を持っている学生には、教科書の第2・7・8章を事前に読んでおくことを勧める。 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。
第7回：[事前学修] [事後学修]	Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。 経済学入門やマクロ経済学の授業を受けた学生は、授業内で配布された財政政策に関する資料を事前に読んでおくことを勧める 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。
第8～14回：[事前学修] [事後学修]	Moodleにアップされる事前資料を読んでおくこと。 講義最後に提示された課題をMoodleにアップするので次の講義までに提出すること。
※事前学修は各授業90分、事後学修も各授業90分必要である。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと	
授業の到達目標／Expected outcome	
・新聞ににぎわす経済ニュースの背景について理解するとともに、国際貿易、国際投資、国際労働移動が国家の政治経済に与える影響について理解して説明できるようになること ・社会を論理的かつ多様な視点から見るための教養を鍛え、社会経済の状況を文章にまとめることができるようになること。 ・世界経済の動向について把握するための十分な経済学的思考方法を身に着けること。	
身につく資質・能力／Competencies to be attained	
・思考力 ・幅広い教養 ・主体性	専門知識・専門技能 【経済学部 経済学科】 ・応用理論 ・政策分析能力
履修上の注意／Special notes, cautions	
国際経済学Aを履修済みであることが望ましい。国際経済問題に強い関心を持つ学生の履修を望みます。	
評価方法／Evaluation	
第2～13回の講義について、毎回講義内容に関するレポートを提出してもらい、それで100%評価します。定期試験は実施しません。 レポートは次のやり方で実施します。 ・レポート課題の内容は講義の最後に説明し、Moodleにアップする。 ・提出期限は次回の講義開始の時間までとし、それ以降の提出は認めない。 ・やむを得ない事情によって期日までの提出が困難な場合は、事前に連絡を入れること。 ・レポートは1000字以上ないと評価されない。(字数制限は課題によって変わることもある) ・提出されたレポートについては1週間以内に「優」「良」「可」「不可」の評価と簡単なコメントをつけてMoodleでフィードバックする。(ただし、最終回(第13講授業)レポートは除く) ・未提出と「不可」の合計が4回に至った学生は、その時点でこの講義の成績は「不可」とする。 その後レポートを提出しても採点はしないし、陳情を聞くつもりもない。 ・他人のレポートのコピー、またはネットからの盗作が明らかになった場合、即時に講義の成績を「不可」とする ・レポートのコピーがあった場合は、どちらのレポートが原本であったかに関わらず、写したものと写されたもの両者の講義の成績を即座に「不可」とする。 ・詳しいレポートの評価基準については、オンデマンド授業で説明するので視聴しておくこと。	
教 材／Text and materials	
教科書ではないが、参考文献として国際経済学Aの教科書として用いた大川良文『入門 国際経済学』中央経済社を指定する。予習では、この本を用いて国際経済に関する基礎知識について学習することを勧める。	
質問や相談の方法／Instructor contact	

研究室：第3研究室棟 9号

オフィスアワー：火曜から木曜日の昼休み（12:15～13:15）

事前にメールで予約すること

連絡先：moodleに記載しているメール・アドレス